

越嶺会報

令和7年(2025年)12月1日

第101号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ

越嶺会http://www.etsurei@eco.u-toyama.ac.jp/e
tsurei/えつれいかい



目次

越嶺随想

- Fact Findingということ 杉浦吉治 2
- 定年退職のご挨拶 垣田直樹教授..... 4
- 母校だより..... 5
 - 教員の異動
 - 富山大学統合20周年記念式典
 - ヘルン文庫特別展示
- 本部だより..... 6
 - 越嶺会総会報告
 - 第35回グリーン会ゴルフコンペ
 - 同窓会連合会

- 各支部・各回だより..... 11
 - 石川、関西、東海、関東、東北、福井
 - 杉浦吉治氏を囲む懇親会
- 表彰・叙勲おめでとうございます..... 17
- 会員の訃報..... 18
 - 石出宗秀君を悼む 塚 光雄
 - 渡邊慶孝
- 会員広場..... 20
 - 作詞家・音楽プロデューサー 権谷達哉
- 受贈図書紹介・御礼..... 21
- 体育会春の球技大会(ビーチボール)..... 21
- 富山大学基金だより..... 22

〈越嶺随想〉

Fact Finding ヲ コトシス

杉浦 吉治

表題の言葉を初めて耳にしたのは、現役時代に財団法人（現公益財団法人）日本生産性本部主催の「経営コンサルタント指導者養成講座」（一年コース）を受講したときだ。この講座では、特に実習のとき、この言葉をインストラクターから何度も聞かされた。「実情調査（事実確認）」を怠るなということだ。

ところで、日銀新総裁のことが話題になっていた頃の二〇二三年二月十五日の日経新聞・朝刊一面「春秋」欄に、次の文章が載っていた。

▼「『社会の存続基盤を危うくするうえで通貨を墮落させること以上に確実な手段はない』。41年前、日銀創立百年

の折、前川総裁は講演でケインズの言葉を引いた。…。」

これを読んだ私は、これはケインズの言葉ではない？確かに彼の著『平和の経済的帰結』（『ケインズ全集』第二巻、早坂忠訳、東洋経済新報社、一九七七）とそれを引用した『説得論集』（同第九巻、宮崎義一訳、同、S五六）にその言葉は書かれているが、その言葉の前に「レーニンは、確かに正しかったのだ。」とある。

「春秋」欄の筆者が、前川総裁の講演を間違つて（レーニンを飛ばして）引用したのではないか、と思い確認のため日経本社へ電話したところ、「ここではわからないので、文書で質問してほしい」と言

われた。そこで、東京本社「春秋」欄筆者宛質問のハガキを出した。しかし、何日待っても返事がないので、「春秋」には間違いはなかったのかと思い、再度確認のため今度は日銀本店へ前川総裁の講演の内容を問うた。すると、親切にネットで検索する方法を教示してくれた。それをご紹介しよう。「日本銀行金融研究所」↓「歴史統計ほか」↓「日本銀行百年史（1982—1986）」↓「序に代えて『日本銀行の使命』」で前川総裁の講演全文が検索できる。

読んでみると、確かに「ケインズは『社会の存続基盤を…』とあり、ケインズの二冊の著書にある「レーニンは…」は省略されていた。

そこで、改めて日経新聞社へ「前川総裁の講演の内容を入手したが、確かに『春秋』のとおりであった。『春秋』欄のスペースに制約があるのであるが、読者はこのまま読むと、『通貨』に対する発言

の元がレーニンとは知らずに、ケインズが初めて発した言葉として理解してしまいかねる。経済専門の有力紙である日経新聞社として、『レーニンの言葉』と補足説明をしていただいたらよかった。」という趣旨のハガキを出した。しかし、その後も何の回答もない。

その後、レーニンはその言葉をいつ、どこで宣言したのか知りたくて、いろいろな資料を調べたが全く分からなかった。そこで、二年前にあることをきっかけに、ネットでご教示をいただいている京大大学院経済学研究科の根井雅弘教授にお訊ねしたところ、「あの言葉はレーニンのものではなくケインズが推測でそう言った、という論文」を読んだことがあります。添付しますので、真偽のほどは分かりませんが、この研究者は相当調べて書いているのだと思います。まず、それをお読みください。」とあり、

《Retrospectives: Who Said

“Debauch the Currency”.

Keynes or Lenin? Michael V.

White and Kurt Schuler

(2009)》という論文が添付さ

れてきた。開けてみてビック

リ! A4サイズでびっしり英

文十枚の論文である。さあ困

った、これを訳すのに何日か

かるか? しかし、根井教授か

ら親切にご教示いただいたも

のだ、やらねばならぬ。

気持を引き締めて少しずつ

翻訳作業を進めた。この論文

の筆者が参考文献とした二十

六点の他引用した十八点の論

文うち、『歴史とは何か』の

著書で有名なE・H・カーが

『ボリシェヴィキ革命』(第

一・三巻)を著しており、そ

のうちの第二巻(宇高基輔訳

みず書房、一九六七)、ま

た、かの有名な『レーニン全

集』の第三十一巻(レーニン

全集刊行委員会訳、大月書店

一九五九)、さらにケインズ

の伝記で著名なロバート・ス

キデルスキの『ジョン・メ

イナード・ケインズ 裏切れ

た期待 1883~1920 第二

巻』(宮崎義一監訳、東洋経

済新報社、一九九二)をそれ

ぞれ取寄せて読んでみたが、

疑問点の解明には至らなかつ

た。さらに、手元にある『ケ

インズ伝(改訂版)上巻』

(R・F・ハロッド著、塩野

谷九十九訳、東洋経済新報社

S四二)、『ケインズ―時代と経

済学』(吉川洋著、ちくま新書、

一九九五)、購入したばかり

の新訳『ジョン・メイナード・

ケインズ 1883~1946』(経

済学者、思想家、ステーツマン 上

巻』(ロバート・スキデルス

キー著、村井章子訳、日本経

済新聞出版、二〇二三)等も

併せ読んでみたが、レーニン

がいつ、どこでその言葉を宣

言したかはついに判明しなかつ

た。また、その論文による

と、『New York Times』に

『Talk with Bolshevik Head』

とか『Lenin Pontificates』の

タイトルで記事が掲載されて

いたようだが、ついに疑問点

は解明されなかった。肝心な

ところが書かれていなかった

のだ。

“Fact Findings”もこのま

でか、ついに「事実確認」は

出来なかった。だが、二冊の

『ケインズ全集』をよく読む

と、前川総裁が引用した言葉

の十行前に「レーニンは、資

本主義体制を打倒する最善の

道は通貨を台無しにすること

だ、と宣言したといわれている。」とあった。やはり、あ

の言葉はケインズの推測だっ

たのか? しかし、できる限り

のことはやったのだからこれ

で満足しよう。

最後に、日銀前川元総裁は、

レーニンの言葉かどうかの真

偽はともかくとして、資本主

義国の中央銀行の栄えある創

立百周年の記念講演に「レー

ニン」を登場させたのはなかつ

たのではなからうか、と勝

手な推測(邪推)をしてこの

拙い随想を終える。

引用文中の傍線は筆者が付す

学部十四回

すぎうら・よしはる

卒業論文返します

返却(ご希望の方は、連絡く

ださい(メール、手紙・はが

き、電話等で)。

受領後、受領書と送料(切

手)を返送ください。

卒業論文を

返してもらった感想

「高齢化社会に向けての

老人介護福祉制度」

四六回 指本(安江) 郁子

このたびは長期保管してい

ただいた卒業論文の返却あり

がとうございました。

一九九七年当時、図書館で

資料を大量にコピーして父親

のワードプロセッサを使っ

て卒業論文を作成していたこ

とを思い出しました。

現在の介護保険制度につな

がることを卒論のテーマとし

た当時の自分は、その後の自

分の人生の役割を察していた

のかもしれない(のちに祖

父母、実父の介護を担うこと

になります)。

母校の益々の発展をお祈り

申し上げます。

定年退職の挨拶

垣田 直樹



一九九〇年四月に着任して以来三六年が経過し、このたび無事に定年を迎えることとなりました。一九九〇年はちょうどバブルが崩壊し、日本経済が停滞の暗闇に入った年でした。そんな時期に、私は富山大学経済学部で専任教員として研究と教育をスタートさせました。前年までは大学院生でしたので、いきなりメジャーのマウンドに立って野球をするようなものだったと思います。

私の専門は国際貿易理論で、数学を多用するミクロ経済学の応用分野です。着任当初の数年间は、黒板に数式や図を埋め尽くして講義をするスタイルでした。当時、受講生は

それほど多くなかったと記憶していますが、その中に毎回必ず出席し、最前列で熱心にノートを取る学生がいました。あるとき、その学生に講義の理解度を尋ねてみると、ノートを取るのに精一杯で内容は難しく理解できていない、という予想外の答えが返ってきました。このことに私は大きく驚き、それ以降の講義方針を大きく転換する契機となりました。

研究の方は、日本経済と同じく長らく暗闇の中でもがいているような状況でした。しかし、九〇年代の終わり頃から学内外の研究者と共同研究を進めることで、徐々に光明が見えてきました。私は不完全競争を前提とした貿易政策の理論分析を主に行っていました。が、財政学を専門とする共同研究者とともに、物品税や生産補助金の国際調和がパレート最適となる条件を探る研究は、非常に刺激的なものでした。海外の国際学会で報告する機会を得たこともあり、その頃から自分の視野が世界へと開けていったと感じています。

その延長として、一九九九年十月から一年間、豪州・メルボルン郊外のラトロブ大学 (La Trobe University) に在外研究で滞在することができました。これは私の人生観・世界観に非常に大きな影響を与えた経験でした。私は「観光客の視点にならないこと、現地に溶け込み、*act like a native*の姿勢で過ごすこと」を心に決めて渡豪しました。



ラトロブ大学では毎週金曜日の午後にセミナーが開か

れ、サバティカル (研究休暇) や研究旅行で来学する海外研究者がプレゼンを行います。渡豪して三か月ほどで、まだ英語も不十分な時期に私もプレゼンを行いました。が、スタッフの皆さんがフレンドリーで、まったく緊張せずに発表できたことを覚えています。

日本の大学では考えにくいことですが、豪州 (ひいては西欧) の大学には学内にバーがあり、アルコールが提供されています。ラトロブ大学ではセミナー後に必ず学内の「Eagle Bar」で報告者を迎え、飲みながら談笑するのが慣例でした。まずピッチャーのビールを飲み、その後はワインに移ります。豪州は世界有数のワイン産地で、特にメルボルン近郊のヤラバレー (Yarra Valley) は有名です。話を戻しますと、Eagle Barではひたすら飲んでしゃべり、ツマミはほとんどありません。これはどうやらロンドン由来の慣習のようで、体にはあまり良くない気もしました。私はいつも最後まで同席し、アパート (正確には town house)

に帰るのは午後九時頃でした。

この一年間の在外研究を経て帰国した後、私はゼミナールの方向性を大きく変更しました。卒論を英語で書くこと、留学をサポートすること、そしてゼミ生を海外に連れて行き、現地でプレゼンさせることを重視するようになりまし。交流協定校とのつながりを活かし、ゼミ生を引率して発表を行い、とりわけラトリブ大学にはゼミ生を連れて訪れることもできました。

私は、自分に衝撃を与える体験こそが人を次のステップへと導くのだと、身をもって学びました。そのような機会を与えてくださった教職員の皆様、そしてゼミ生諸君、富山大学経済学部には心から感謝しています。

結びにあたり、大学生の皆さん様をお持ちの越嶺会の皆様には、ぜひお子様が「海外の異なる文化・慣習・思考」に触れる経験を後押ししていただきたく願っております。そうした体験が必ずや人生を豊かにし、次の一步を踏み出す力になると信じております。

末筆ながら、越嶺会のさらなるご発展と、会員の皆様のご健勝を心より祈念いたします。
かきた・なおき

母校だより

教員の異動

逝去

龍 世祥名誉教授
二〇二五年七月十三日逝去
された。六十五歳

定年退職

(二〇二五年三月三十一日)
松井隆幸教授
龍 世祥教授

新任

(二〇二五年六月一日付)



八木迪幸 (やぎ・みちゆき)

担 当…環境経済学

教授

最終学歴…東北大学大学院

環境科学研究科
(博士…環境科学)
前 職…九州大学都市
研究センター・

講師

生 年…一九八四年八月
出身地…岩手県洋野町
ひとこと…環境経済学・環境
経営学の視点から、企業と
地域の持続可能な発展を研
究しております。カーボン
ニュートラル社会の実現に
挑戦できる日々を楽しみに
しています。

富山大学

統合二〇周年 記念式典

二〇二五年十月一日黒
田講堂において、富山県
知事をはじめ多数の来賓
を招いて式典等が挙行さ
れた。

式典では、斉藤学長の
開会挨拶、文部科学省、
富山県知事、富山市長の
来賓あいさつの後、中尾
哲雄さんが、同窓会連合
会初代会長として共催者
挨拶を述べられた。
その後、「富山大学の

転出

(二〇二五年三月三十一日)

竹地 潔教授

二〇〇二年一〇月着任

労働法担当

山田潤司准教授

二〇一二年四月着任

金融論担当

鈴木敬史助教

二〇二三年四月着任

知的財産法担当

南山大学法学部へ



今」をテーマにシンポジウムがあり、中尾さんもパネリストとして登壇、ふるさと納税が盛んだが母校にももつと寄付しようと呼びかけられた。

次に「富山大学のNEXT二〇年に向けて」として、近年卒業修了した三名と在学生一名が経験や、抱負を述べた。

ヘルン文庫特別展示 十二月二二日(月) まで

NHK朝ドラ「ばけばけ」の放送にあわせ、特別展示として、ヘルン文庫に所蔵するハーンやセツが実際に手に取っていたと思われる和装本とハーンが書いた怪談作品を中心に、再話文学と原話との違いを紹介します。

【会場】中央図書館5F

ヘルン文庫前

【期間】十二月二二日(月)

【時間】中央図書館の開館時間に準ずる。

ヘルン文庫前での展示です。ヘルン文庫公開日に関わらずご覧いただけます。

本部だより

越嶺会総会

二〇二五年六月五日(木)富山駅北カナルパークホテルで開催された。

昨年十月創立百周年記念大会を開いた後の通常総会であった。開会挨拶で伍島二美男会長は、記念事業での会員の協力に感謝し、絆を強めることができた意義のある行事であったと振り返った。

中尾哲雄最高顧問は、NHKの朝ドラでこの秋から「ばけばけ」が放送されるが、八雲会会長として取材を受けている、出演はしない、と笑いを誘い、アイルランド大使館の要請を受けて大阪万博で「ムジナ」の紙芝居を披露してきた話をされた。

森口毅彦学部長は、経済学部基金に多額の寄附が寄せられていることに謝意を表し、データサイエンス教育を進めていて高い評価を得ていることを伝えられた。

議事では、山瀬孝副会長を

総会議長に、令和五年六年度の決算を原案通り承認し、令和七年度の事業計画を伍嶋会長、荻野彦・越嶺会人材育成研究会長の補足説明ののち、異議なく承認された。

百周年の残り事業は、講義室の改修、人材育成事業等である。

役員改選では伍嶋二美男会長の三選を決めた。

議事を終え、現役学生とのつながりとして、富山大学吹奏楽団の経済学部一年山塚香凛さんほか四名が木管五重奏で会場を和ませてくれた。

次いで学生三名による研究発表があった。矢島桂先生ゼミ東堂桂修、谷晃成、山崎真実の三氏が「富山県における若年女性の流出要因に関する研究」について図表を映写し説明した。今年三月、県庁で記者会見しNHK、新聞社でも取り上げられたものである。

休憩後、懇親会では、再びアンサンブル演奏が披露され会場がにぎやかになった。

間をおいて、短大部の方々に輝く立山の姿を讃えた「国分青厓 立山を望む」が吟じられた。

最後に新卒一年三年の四名が登壇、自己紹介の後、「ふるさと」合唱をリードし、「立山神通輝いて」と歌う中尾さん作詞の四番を中尾さんの主唱で歌いあげて、めでたくお開きとなった。

司会進行は重原佐千子さん(学部五四回)、写真撮影は釜谷春雄さん(学部二一回)であった。

役員名簿 (一部)

会長

伍島二美男 (学部三〇回)

最高顧問

中尾 哲雄 (学部八回)

顧問

森口 毅彦 (経済学部長)

副会長

堀田 正之 (学部二六回)

竹野 博和 (学部三二回)

土屋 誠 (学部三四回)

山瀬 孝 (学部三四回)

竹田 達矢 (学部三八回)

森 浩一 (学部三二回)

石川支部長

監事

釜谷 春雄 (学部二一回)

殿村 幸子 (学部三八回)

常任幹事

飯塚 修 (学部二五回)

関東越嶺会長

三宅 博（学部二二回 関西支部長）	中村 昌弘（学部二二回 東海支部長）	奥 清一（学部一九回 東北支部長）	平野 恵次（学部二九回 福井支部長）	学部 十四回 四津井宏至 十七回 上埜 進 十八回 遠藤敏之、宮地秀明 二十一回 小竹茂樹、澤合文雄 二十二回 米原俊孝 二十五回 帶原 隆 二七回 布目大剛 二八回 小林武人、吉野哲哉 二九回 碓井光一 三〇回 鶴瀬初弘、福井直樹 三一回 麻生成俊、伊野伸英 三三回 山田吉晴 三三回 舟崎友晶 三四回 福田直之	三三回 崎 安宏、木村温子 三五回 長津輝彦、松本智弘 三六回 岡本 武 三七回 杉本正人 三八回 大西哲憲、谷畑滋英 三九回 大波加肇、清川 亨 四〇回 五島直樹、二口 洋 四〇回 赤川浩一、堺 広光
寺嶋直美 金瀬正志、牧山貴英	東田勇秀 手崎裕之 小島雅史、杉原英樹 村田英久、大嶋敬右 上田亜希子 堀 健二 小笠原史明 沖よし子 宮崎達也 花岡秀樹 開坂哲也、三波左京 重原佐千子 能登幸美 水本洋一 福田純子 黒川美恵、園部佑樹 金沢 輝 青木佑司 末石航也 井澤彩斗	四一回 四二回 四三回 四四回 四四回 四六回 四七回 四八回 四九回 五〇回 五一回 五二回 五三回 五四回 五五回 五五回 五八回 五九回 六三回 六八回 六九回 七〇回	二回 三回 六回 十一回 十三回 十六回 二四回 二〇回	稲垣喜夫 高田政公 大垣輝夫 重松文治 嶋田茂晴 浦田竹昭、志村幸光 中保仁志 山崎宗良 荻布 彦	

総会出席者 学部 五回 福田 明、宮崎甚一 六回 池上文夫 八回 中尾哲雄 十七回 上埜進 十八回 遠藤敏之、宮地秀明 二一回 釜谷春雄、米原俊孝 二二回 鳥居由美子 二二回 松尾博文 二六回 堀田正之 二七回 碓井光一 二九回 福井直樹 三〇回 伊野伸英、大野公久 桑原幹也 伍島二美男 寺西裕行 舟崎友晶 土屋 誠、檜山和良 松本智弘、山瀬 孝 山田 勉 吉澤 斉 岡本 武、杉本正人 深田清就 中川 保、森田一郎 大波加肇、黒川 央 竹田達矢、殿村幸子 二口 洋 赤川浩一 長谷川正人 金瀬正志、森本 暁 東田勇秀 杉原英樹	四六回 四七回 四八回 四九回 五〇回 五三回 五四回 五五回 五五回 五七回 五九回 六七回 七一回 七三回 二回 五回 六回 十一回 十三回 二四回 九回 二〇回 三〇回	村田英久 上田亜希子 高原 譲 沖よし子 二口泰史、宮崎達也 三波(さんなみ)左京 藤沢さなえ 重原佐千子 松原隆光 能登幸美 水本洋一 黒川美恵、園部佑樹 山田航大 川島 陸、宮崎友理 安藤琴葉 宮ケ丁瑞己 稲垣喜夫 中田正雄 大垣輝夫 重松文治 嶋田茂晴 山崎宗良 福井幸博 荻布 彦 田形昌敏
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



2023 (令和 5) 年度 越嶺会会計決算書 (令和 5 (2023)年 4 月 1 日～令和 6 (2024)年 3 月31日)

1. 一般会計

単位：円

収入の部	決算額	支出の部	決算額
前年度繰越金	1,371,188	事務費	224,308
入会金・終身会費	6,060,000	通信費	2,859,757
総会等懇親会費	415,500	印刷費	1,785,740
会報発行協力金	63,000	手数料	50,506
利息収入	62,154	旅 費	162,000
越嶺会基金より	1,000,000	総会費	653,350
		人件費	1,457,544
		会議費	36,975
		慶弔費	0
		卒業祝賀会経費	1,126,724
		学部助成費	0
		同窓会連合会分担金	80,200
		支部助成金	87,000
		予備費	20,000
		翌年度繰越金	427,738
合 計	8,971,842	合 計	8,971,842

2. 越嶺奨学基金会計

収入の部	決算額	支出の部	決算額
前年度繰越金	20,303	事業費	160,000
利息収入	69,000	予備費	0
越嶺奨学基金より	100,000	翌年度繰越	29,303
合 計	189,303	合 計	189,303

3. 百周年特別会計

収入の部	決算額	支出の部	決算額
寄付金	27,155,977	手数料	169,454
利息収入		翌年度繰越金	26,986,523
合 計	27,155,977	合 計	27,155,977

4. 基金

基金名	R 5 年 4 月 1 日	R 6 年 3 月31日
越嶺会基金	25,000,000	24,000,000
越嶺奨学基金	29,100,000	29,000,000
合 計	54,100,000	53,000,000

2024 (令和 6) 年度 越嶺会会計決算書 (令和 6 (2024)年 4 月 1 日～令和 7 (2025)年 3 月31日)

1. 一般会計

単位：円

収入の部	決算額	支出の部	決算額
前年度繰越金	427,738	事務費	404,838
入会金・終身会費	6,420,000	通信費	3,024,130
総会等懇親会費	0	印刷費	1,666,332
会報発行協力金	46,000	手数料	51,864
利息収入	32,002	旅 費	238,040
越嶺会基金より	1,500,000	総会費	0
名簿代	10,000	人件費	1,527,565
※ 1 年 2 9 6 名		会議費	75,628
／ 3 3 9 名		慶弔費	11,888
2 年 1 4 名		卒業祝賀会経費	892,182
3 年 6 名		学部助成費	0
4 年 5 名		同窓会連合会分担金	80,300
計 3 2 1 名		支部助成金	68,832
		予備費	66,000
		翌年度繰越金	328,141
合 計	8,435,740	合 計	8,435,740

2. 越嶺奨学基金会計

収入の部	決算額	支出の部	決算額
前年度繰越金	29,303	事業費	120,000
利息収入	30,000	予備費	0
越嶺奨学基金より	100,000	翌年度繰越	39,303
合 計	159,303	合 計	159,303

4. 基金

基金名	R 6 年 3 月31日	R 7 年 3 月31日
越嶺会基金	24,000,000	22,500,000
越嶺奨学基金	29,000,000	28,900,000
合 計	53,000,000	51,400,000

5. 経済学部基金 2024年度決算

収入の部	決算額	支出の部	決算額
個人11件(うち匿名4件)		事業経費	636,637
団体 1 5 団体		次年度繰越金	12,682,215
合 計	13,318,852	合 計	13,318,852

3. 百周年特別会計

収入の部	決算額	支出の部	決算額	備 考
R 5 年度寄附金	27,155,977	R 5,R6年度計		
R 6 年度寄附金	8,399,035	R 5 年度手数料	169,454	
祝賀会費	2,280,000	R 6 年度手数料	118,760	
ご祝儀	370,000	広報費	3,630,000	新聞 3 紙全面1回+1紙半 5 段単色 2 回
小旅行会費	200,000	越嶺会報	2,695,000	テレビ 3 社+制作費30万
ゴルフ懇親会費(55名)	275,000	H P 改善維持費	4,600,000	越嶺会報分担分(※ 1)
ゴルフ協賛金	12,000	会場費	550,000	HP改善維持費(ジェック)
広告収入	650,000	会場費(縦看等)	281,040	オーバードホール
※富山銀行30万、		会場費(WEB配信)	172,810	
富士印刷20万、		記念品代	427,532	※ 2
塩崎商街10万		吹奏楽団謝礼等	1,318,524	
北陸電気製造 5 万		祝賀会経費	727,040	
		記録経費	4,210,141	カナルパークホテル支払い
		小旅行(立山岩瀬)経費	46,000	写真サークル等
		ゴルフ経費	368,400	
		残額	381,395	
			19,645,916	
合 計	39,342,012	合 計	39,342,012	

※ 1 越嶺会報96～99号通信費、印刷費の約1/2 を分担

※ 2 手袋袋、プログラム、富山大学ヒストリア、クリアファイル

越嶺会会計予算案 (令和 7 (2025)年 4 月 1 日～令和 8 (2026)年 3 月31日)

1. 一般会計

単位：円

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前年度繰越金	328,141	事務費	330,000
入会金・終身会費	6,200,000	通信費	2,900,000
総会等懇親会費	520,000	印刷費	1,700,000
会報発行協力金	700,000	手数料	50,000
利息収入	35,000	旅 費	250,000
越嶺会基金より	1,500,000	総会費	800,000
		人件費	1,600,000
		会議費	40,000
		慶弔費	15,000
		卒業祝賀会経費	1,000,000
		学部助成費	0
		同窓会連合会分担金	82,100
		支部助成金	100,000
		予備費	416,041
合 計	9,283,141	合 計	9,283,141

2. 越嶺奨学基金会計

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前年度繰越金	39,303	事業費	120,000
利息収入	35,000	予備費	54,303
越嶺奨学基金より	100,000		
合 計	174,303	合 計	174,303

3. 百周年特別会計

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前年度繰越金	19,645,916	事業費	19,645,916
合 計	19,645,916	合 計	19,645,916

4. 基金

基金名	R 7 年 3 月31日
越嶺会基金	22,500,000
越嶺奨学基金	28,900,000
合 計	51,400,000

第三五回越嶺会グリーン会 ゴルフコンペ開催報告

十月十三日(月・祝)、太閤山カントリークラブ(富山県射水市平野一番地)にて、開催されました。

当日は小雨降る中でのスタートでしたが、十月半ばとしては割りと暖かくもあり、天候も大崩れすることなく、今年はお参加者五名を含め、総勢三六名が集い、同窓の交流親睦を深めながらプレーを楽しみました。

プレー後の表彰式では、和やかな雰囲気の中、優勝の三〇回桑原幹也さんをはじめ、第八位越嶺会最高顧問賞、第三三位太閤山カントリークラブ賞、第三四位越嶺会グリーン会会長賞、ベストスコア賞やドラコン賞、ニアピン賞、レディーズ賞などの各賞が発表さ



土屋会長 (34回)
優勝者桑原様 (30回)



れ、大いに盛り上がりました。閉会の挨拶では、太閤山カントリークラブ社長で三三回今村巧さんより、次回開催に向けてまして、会員の皆さまへの更なる参加へのお声かけもいただきました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。今回のコンペを通じて育まれた同窓の絆をこれからも大切にしていただければ幸いです。次回のコンペでも、お一人でも多くの会員の皆さまの元気な笑顔にお会いできることを楽しみにしております！

参加者名

学部

一六回 針山健二
二〇回 江藤雅雄、大橋正幸



今村太閤山CC社長(33回)
閉会挨拶

二二回	小野 崇、関井哲仁
二六回	福岡克美
二九回	小竹茂樹
三〇回	三箇周治
三三回	鶴瀬初弘、水上裕司
三四回	宮村 樹
三五回	青山哲哉、大野公久
三六回	桑原幹也、中田和夫
三八回	今村 巧、中本秀史
四〇回	浅井清志、太田博喜
四一回	岡本 武、土屋 誠
四二回	榎山和良、丸杉 輝
四三回	古里博人
四四回	杉本正人
四五回	江島教英、二口 洋
四六回	扇谷亜由美
四七回	島谷武志、新川兼史
四八回	長谷川正人
四九回	金瀬正志、本田泰郎
五〇回	柴田正明
五一回	木瀬博文
五二回	福井幸博
五三回	金瀬正志

記

同窓会連合会

第十六回ゴルフ大会

二〇二五年五月二十四日(土)高岡カントリー倶楽部で仰岳会が世話をして開催された。越嶺会七名、仰岳会十三名、薬窓会六名、雪紋会(理学部)一名、計二七名の参加であった。

成績は、団体優勝が薬窓会。個人優勝は島崎修一さん(仰岳会)、準優勝は松原隆光さん(越嶺会)であった。

越嶺会参加者は、松原隆光、木村昌幸、関井哲仁、榎山和良、木勢博文、杉本正人、長谷川正人のみなさんであった。

二〇二五年度総会

二〇二五年七月一九日(土)十時より富山電気ビルで開催された。事業報告決算報告が承認され、記念講演では、「すこやかに生きる 整形外科医が教える腰痛と関節痛の対処法」と題して医学部の川口善治・整形外科教授がわかりやすく面白く話してもらった。

た。
懇親会では、初代会長の中尾さんが、乾杯の発声をして開会した。

越嶺会からの参加者は

中尾 哲雄、伍島二美男
沖 よし子、田形 昌敏
鳥居由美子、大波加 肇
碓井 光一、殿村 幸子
水本 洋一、三波 左京
佐藤 洋子、米原 俊孝

ホームカミングデー

卒業生の母校訪問を促し友や恩師との旧交を温めてもらい、母校との繋がりを強めてもらう行事である。今年は教育学部が担当して十月二十四日(土)十時からオンライン参加四名を含む六〇名が参加して開催された。

シンポジウムは、地域、技術、国際化をテーマに教員養成と学校教育の在り方を展望する「未来を拓く学びのかたちー変化する社会と教育のデザイン」のもと、

1. 共同教員養成課程の取り組み 徳橋曜教授
2. 生成AIとこれからの学

3.

校ー教員の役割はどう変わるか 長谷川 春生教授
国際化する地域社会と学校ー多文化共生に向けた教育の展望 宮城信准教授の発表があった。



シンポジウム



交流会 (鳥居さん)



富大祭

支部・各回だより

石川支部総会

七月二五日(金)一八時三〇分より金沢ニューグランドホテル銀閣において女性二名を含む三九名で開催いたしました。

来賓として伍嶋二美男越嶺会会長、森口毅彦経済学部長にもご出席いただきました。総会で昨年度の事業報告、決算報告を行い承認となりました。

今年度の催しとしてオーケストラアンサンブル金沢四名による演奏を聴いてもらいました。バッハのアリアや希望の星など、アンコールを含め六曲を披露してもらい、本格的な演奏を目の前で感じることで貴重な体験でした。

伍嶋会長からは昨年十月の百周年記念大会をはじめ記念事業についてお礼とこの後の計画についてお話があり、森口学部長からは経済学部、富山大学の近況についてお話がありました。

堀田正之副会長の乾杯発声

で懇親会が始まりました。なつかしい顔ぶれとの再会のみならず、会場で初めてお会いした人とも話が弾みおもしろい料理と共に楽しいひとときとなりました。



蘭守貴弘前支部長の中締め
の挨拶をいただき無事お開き
となりました。

森支部長からは、引き続き
来年の総会でも新たな趣向を
凝らした催しを実施したいと
お話があり、事務局としても
また参加したいと思ってもら
える石川支部総会を開催して
いきたいと思っています。
イベントが重なる時期では
ありますが、皆様お誘いあわ
せの上多数の参加をお待ちし
ています。

参加者

来賓 伍島二美男越嶺会長

来賓 森口毅彦学部長

十一回 藤田長悦

十九回 福田幸進

二四回 蘭守貴弘

二六回 堀田正之

院九回 福井幸博

三〇回 北山光宏

三一回 里見浩次郎

三二回 森 浩一

三九回 越野 豊、古屋 健

四〇回 堀 琢也、田村 創

茶谷哲也、南 和花

四一回 村本 満

杉原秀俊、西田恵介

本田泰郎、山島 茂

寺末哲也、山島 茂

四四回

四五回 赤井陽介

四七回 中西広司

四八回 楮 英和、山田康宏

四九回 山口高史

五三回 石山陽介、高島禎郁

濱頭孝之、松村昂星

山田晋也

五四回 中本篤志

五六回 吉村誠剛

五九回 坂北尚斗、宮腰裕之

六〇回 國香翔太

七一回 渡 智寿

令和7年度関西支部総会

令和七年九月六日(土)

十二時～十五時

場所「がんこ梅田本店」

出席者 十五名(内来賓一名)

来 賓 米原越嶺会事務局長

支部員

十三回 谷垣善博

十八回 二口孝志、村田 悟

十九回 金森喜久雄

椎原秀雄

西堀喜久夫

二一回 中川良和

二二回 田中 史、松村雄治

三宅 博

二六回 忠 吉春

二九回 脇田守男

三一回 畑 栄一

三七回 池田陽介

脇田副支部長の司会で開会、
記念写真、黙祷、三宅支部長
挨拶、会計報告のあと、来賓
の米原事務局長様からご挨拶
を頂きました。



三宅支部長からは、昨年の
創立百周年記念式典について、
ネットでも今も式典、シンポジ
ウム、演奏会を見、聴くこと
ができるのを見てほしいと報
告があり、また在学時の瀬岡、
吉原先生がご存命なのは何よ
りうれしいことと述べられた。
米原事務局長からは、百周年

記念事業への協力御礼があり、数々の資料を頂き、二〇二六年版経済学部のパンプから現況説明がありました。

この後、恒例の皆様のショートスピーチが始まりました。谷垣先輩の乾杯のご発声に続き、それぞれが、学生時代の思い出や社会に出てからのご経験話を話してもらいました。堅苦しくなくアットホームな皆様で作る同窓会が今年も再現できて、和氣藹々とした楽しいひとときとなりました。

二口先輩からは、龍谷大や大阪観光大教授だった四回の羽田昇史先輩の紹介や、金森先輩からはガンバ大阪で社長を務めたこと、その後追手門学院大で教鞭をとり今はセキユリティ保護の仕事をしている(越嶺会報第九三号「今頑張れるのは富山魂のおかげ」参照)との話に感銘しました。

西堀先輩からも社会に出てから、京大大学院に進まれ九州国際大で学生達にご指導された話がありました。

また今回十年振りに参加された中川先輩からは、富山での青春時代の懐かしいお話や寮歌をご披露して頂き、皆

が青春時代を懐古しながら、熱心に聞き入っていました。

神戸支部長をしていた畑さんは、参加者が減少し神戸支部を取り止めて関西支部に数年前より参加頂いております。

若い方からも、社会に出てからのご苦労話やこれからどう生きるかなど、なかなか興味深いお話がありました。

最後に、今後の運営について皆様と協議しました。

今回の参加者十四名中、七〇歳以上が十一名を占め、若い方が参加されず、このまま推移すれば、由々しき事態を招きます。事務局の三人(三宅、脇田、山田)も十一年経過し、新しい陣容に交代して欲しいとの強い願望でした。

支部存続の為に皆様からご意見を頂き、次回は、金森先輩と西堀先輩が幹事となり開催地・日時を決めて頂き開催することになりました。

なによりも、現参加者の皆様が健康で引き続き参加を樂しむことがファーストだと思います。皆様で力を合わせて、

歴史と伝統ある関西支部を存続していきましょう。

脇田 守男 記

東海支部総会・懇親会

令和七年九月二〇日(土)正午から名古屋栄の東京第一ホテル錦にて開催しました。来賓には森口経済学部長、山瀬越嶺会副会長をお招きして会員五七名と来賓二名の総数五九名の総会・懇親会となりました。

第一部の総会では中島幹事の司会の元に、中村支部長挨拶では今後もより多くの参加者を募ることに依り多様性の溢れる同窓会にしたいとの方向が示されてのち、会計、会計監査、新役員体制が原案通り承認されました。

東海支部役員

支部長	中村昌弘	(22回)
副支部長	川瀬基弘	(27回)
会計	尾関桂子	(34回)
計	倉地博之	(47回)
会計監査	置田正浩	(32回)
事務局	倉地博之	(47回)
局長	服部智政	(45回)
幹事(ゴルフ部会長)	白石憲生	(36回)



幹事(無任所)

平松秀康	(31回)
中島弘人	(31回)
加藤隆久	(29回)
木村吉誠	(35回)
清 信裕	(23回)
馬場幸博	(27回)
細江克秀	(26回)

また十一月十六日(日)開催予定の第四回ゴルフコンペの案内もありました。

昨年から富山大学の配偶者(経済学部に限らず)とご一緒の場合の特別優遇を試みましたが今年はそれを拡大して親子の同窓生にも参加費優遇としました。

昨年に続いて一組の経済学部卒のご夫婦の参加と息子さん(人文学部卒)との親子参加がありました。こんなこともしながら多くの同窓生が楽しく集えればと思います。また、今回が初参加の方が実に七名もいらっしゃって頂きました。嬉しい限りです。

特別講演として、岐阜県土岐市で三五年間陶磁器加工業を営む加藤浩成さん(三四回)から「地場産業・美濃焼の現

在と未来」～伝統産業の明日を考える～をテーマに美濃焼の製造過程の動画を交えての興味深い話を頂きました。パソコン操作のサポートとして人文学部卒の息子さんに参加頂きありがとうございました。

第二部の懇親会では、加藤幹事の司会により、最年長の十四回下平邦弘さんから大学への熱い思いの乾杯の発声を頂き宴が始まりました。

暫く懇談の後、川瀬副支部長と尾関副支部長、木村幹事による「富山と大学 今昔物語 クイズ編」と称して、好評だった昨年に続いて富山に関わるクイズを団体戦、個人戦で競い合いました。テーブル毎に相談・会話が出来て、参加者の距離が縮み、大いに盛り上がりました。

賞品は白エビせんべい等の富山名物でご家庭への懐かしいお土産となりました。

懇談の時間にはサークルの先輩・後輩が思い出に興じているグループもありましたし、名刺交換にてビジネスの新たな人間関係を築いている方も多く見受けられました。



会の最後には恒例の童謡「ふるさと」をテーブル毎に肩を組んで合唱して気持ちを一つにして再会を誓いました。今年は音楽好きの会員による生伴奏(サクソスとギター二人)が合唱に花を添えました。この同窓会の輪をこれから一緒に楽しく大きくしたいとの気持ちのこもった置田幹事の閉会の挨拶で三時間の会をお開きとしました。

なお、来年二〇二六年は九月二十七日(日)予定しています。東海支部会員の多くの参加を願っています。

出席者

十四回	熊谷隆夫、下平邦弘
十五回	杉浦吉治
十七回	伊藤佑三
十八回	磯井幹彦
	稲村敏夫

十九回	野田賢次郎
二二回	伴 茂夫
二三回	中村昌弘、磯部吉金
二四回	立松信孝、森田守保
二五回	石原昇治、稲見俊郎
二六回	清 信裕、水谷正秀
二七回	服部重敬、藤田龍造
二八回	江端正剛、成田順一
二九回	藤田隆彦
三〇回	川瀬基弘、馬場幸博
三一回	平工信雄、大野昌伸
三二回	井波 隆
三三回	加藤隆久
三四回	岩瀬正昭、平松秀康
三五回	中島弘人
三六回	伊藤 修、置田正浩
三七回	高見 功
三八回	古川 誠
三九回	尾関桂子、加藤浩成
四〇回	加藤浩成、錦見直樹
四一回	木村吉誠、美智子
四二回	榊原博行、杉山富保
四三回	松原 正
四四回	岩永雅人、白石憲生
四五回	小林義郎、中島英登
四六回	石田 尚
四七回	近藤 秀
四八回	加藤規久、服部智政
四九回	倉地博之、近藤 保
五〇回	峰谷将太
五一回	田口寛道
五二回	北川晃大
五三回	加藤智旗
五四回	中村 記

令和七年度 関東越嶺会総会

九月二〇日(土)に富山県赤坂会館(港区)にて開催しました。本年三月に東京富山会館(文京区)が閉館となりました。会場設営にあたり、横山隆さんをはじめ東京富山県人会連合会(以下、連合会)の皆様にご尽力いただきました。有難うございました。以前の会場より少し狭くなりましたが、会員間の距離が近づき一体感がより増したと思います。

司会進行を林明宏代表幹事(学部二八)が務めました。飯塚修会長(学部二五)は、開会の挨拶で「来賓・会員の参加に感謝します。昭和も一〇〇年、人生も一〇〇年時代と言われる。第二第三の人生を同窓会や趣味などで楽しみましょう。」と話しました。富山からの来賓である越嶺会本部の伍嶋二美男会長(学部三〇)は「昨年は経済学部が一〇〇周年を迎え富山で盛大な式典ができた。多くの方から頂戴した寄付金は、学生支援や更なる越嶺会の発展のために有効に活用していき

い。」と挨拶されました。総会議案は事業報告・収支報告の第一、三号議案がありましたが、林代表幹事・柿本浩和会計(学部三一)・村山修監事(学部二五)が説明し、承認されました。第三号議案により、年会費は一口三千円となりました。

今回はミニ講演を企画し、「データサイエンスの現在と展望」と題して唐渡広志経済学部教授から説明を受けました。「現在経済経営学科の一学科となった経済学部全体でデータサイエンス教育を展開している。データサイエンスとは、社会科学の専門性部分の集合体である。実業である企業との連携も大変有効である。」今後の学生や先生方の活躍を大いに期待しています。連合会の東豊昭専務理事は、築地本願寺での合同慰霊祭ほか連合会の主な活動、大相撲十両の朝乃山(富山市出身)の活躍ぶりなどを説明されました。

第二部の懇親会は、塚光雄副会長の乾杯発声で始まりしました。ます寿司・かまぼこ・



富山の日本酒(羽根屋・立山他)が例年通り用意され、参加の皆さん舌鼓をうったことでしょう。

数年ぶりで再会の会員もあり、近況報告・富山の話題などで旧交を深めました。懇親会の中、平尾外志雄仰岳会関東支部長(工学部)と畠山伸二富山葉窓会首都圏支部長(薬学部)からもスピーチをいただきました。

楽しい時間もあっという間に、盛会裏の中、檜崎進副会長の元氣な一本締めにてお開きとなりました。

参加者

【来賓】

唐渡 広志(経済学部教授)
伍嶋二美男(越嶺会会長)
東 豊昭(連合会専務理事)

佐々木弘恵(北日本新聞執行役員 東京支社長)

高島美奈子(富山県人社取締役)

平尾外志雄(工学部)

畠山 伸二(薬学部)

【会員】

学部

五回 浦嶋 稔、大平恵久
六回 中島正彦、本村正忠

高柳文夫

八回 小川豊、小川実(同伴)

十一回 塚 光雄

十四回 渡邊慶孝

十八回 長谷川健郎

十九回 有沢正道、野村邦雄

二十一回 今井修一

二一回 永井雅律、江藤隆典

二二回 室伏 渉

二五回 平方睦男

二七回 飯塚 修、村山 修

二八回 石川富洋

二七回 前田昭夫

二八回 林 明宏、森 秀貴

三〇回 吉田正克、田中敏彦

三一回 宮村敬治、池村壮平

三二回 柿本浩和

三四回 山本康二

六三回 川口一司

短大 井上瑛晶

五回 檜崎 進

林 明宏 記

第二十一回 越嶺会東北支部総会

アンケートを参考にして参加しやすくするために、支部総会を仙台市で土曜日の日中に開催することにしました。

そして、二〇二五年（令和七年）十月十八日（土）お昼十二時半からJR仙台駅近くの「花蔵」にて開催しました。東北六県をエリアとする当支部には、二六六名の会員がおられます、今回は六名の出席で無事開催することが出来ました。

総会では、奥支部長から



「今回は、土曜日のお昼から開催してみました。前回よりは参加人数は増えたものの少なく残念ですが、継続して開催していくことが大切です。今後の支部運営の活性化について考えていきましょう。」との挨拶があり、続いて鈴木事務局長の司会進行で「活動報告」「会計報告」「監査報告」に続き、「役員選出」で東北支部役員五名再任と新任一名の提案があり、全会一致で決定いたしました。

〔支部役員〕

二〇二五年十月十八日改選

支部長	奥 清一 (19回)
副支部長	加藤道雄 (10回)
副支部長	尾山和之 (24回)
幹 事	佐藤 徹 (33回)
監事(新任)	中西知之 (29回)
事務局長	鈴木政司 (29回)

支部の活性化については、参加しやすくするために総会を毎年仙台市で開催してはとの提案があり、来年も開催することになりました。

今回参加の皆さんとの再会は勿論、一人でも多くの東北支部会員が参加いただけるように、広く会員への開催実施をアピールしていくことにし

ました。参加できない会員からもご意見ご提案をお伺いすることにします。

最後に尾山副支部長の中締めで閉会となりました。

参加者

十一回 高橋邦文
十九回 奥 清一
二四回 尾山和之
二九回 鈴木政司、中西知之
三三回 佐藤 徹
鈴木 記

少人数でも開催！と

意気込む【福井支部】

昨年は学部創立百周年に合わせ記念大会前に開催し、十名を超える参加者がありました。

LINEグループのメンバーが増えてきたものの、今年は：。しかし「少人数でも開催する！」と意気込み今年も開催しました。

参加者は八名でしたが、なんと人文学部の方一名の初参加がありました。富山大学同窓会の福井支部、ということ顔を出していただき、初の混合開催となりました。越嶺会本部からは、昨年同



様、堀田正之副会長さんがお越しになり、百周年記念式典の様子や、ハイブリッドで開催ができたことなど、感謝の言葉をたくさん頂きました。また、話題は懐かしい話のみならず、サークルの当時の会報誌を持参された方があり、皆で懐かしく回覧し話が弾みました。

毎年参加者が多くない中で、人文学部の方がいらつしやったことから、他の学部の方も参加できると話の幅も広がります。賑やかになるのではないかと、今後はLINEでのお誘いや、若手が入るようコミュニケー

ションを工夫しようと盛り上がりました。

平野新会長からは「今ある人脈とは違う、新たな人脈を作るチャンスです。さらに活性化をしていきましょう!」と、力強くコメントいただきました。

事務局より..今回あらたにホームページを開設しました。今後とも内容更新して参ります。

表彰

おめでとーございます

川口直樹さん(学部三二回)

鯖江市市政七〇周年記念式典において鯖江市市政功労表彰(自治)を受けられました。

中村和之・名誉教授

富山市合併二十週年記念式典において、特別功労者(総合計画審議会部会長)表彰を受けられました。

叙勲

おめでとーございます

旭日双光章

小竹茂樹さん(学部二一回)

<https://etsureikai-fukui.jimdofree.com/>

参加者

一回 渡辺邦彦(人文学部)
一回 梯左武良
一回 重久修造
一回 舟木幸雄
一回 白崎 章
一回 堀田正之
一回 平野恵次
一回 林 智之

杉浦吉治氏(学部十四回、名古屋在住)ご夫妻を囲む懇親会の開催

日本山岳写真協会入選のお祝いを兼ねてー

杉浦氏は、本年も日本山岳写真協会展に入選の栄誉を得て上京されましたので、二〇二五年九月十二日(金)祝賀会を兼ねた懇親会として集いました。

前日は東京都や神奈川県では記録的な豪雨によって、各地で冠水や河川の氾濫が発生した日でありました。

展示会場の東京都美術館にて、杉浦氏から、「月明かりの梅里雪山と明永氷河」の説

明を受けました。深夜の月明かりの中、神々しい梅里雪山と長大な明永(ミヨン)氷河を、二〇〇三〇分の露光で撮影した中の一枚と聴きました。梅里雪山は中国雲南省にあり、六七四〇mの最高峰は聖山のため未踏峰です。また、十七名の「日中合同梅里雪山第二次学術登山隊」(十一名の京都大学学士山岳会員と六名の中国人)全員の遭難事故(一九九一年一月)で一躍有名になった聖山です。

午後は、上野精養軒のレストラン・サロンにおいて、開会挨拶の後、福田哲郎顧問(学部一八回)に乾杯の音頭をとっていただきました。ランチコースを賞味しながら歓談に移り、主賓の杉浦吉治氏から挨拶とともに山岳写真撮影の経験話を拝聴しました。

続いて皆さまの近況報告や在学時の思い出話を生の声で語り合いながら、時の経過も忘れて和やかなひとときを過ごすごうことができました。

終了時間の接近にあわせて、渡邊慶孝氏(学部一四回)に締めめの挨拶をお願いして、迫力ある一本締めで会を締めくくりました。

ご参加いただいた皆さまには、大変有意義な一日を共有できましたことに心から感謝申し上げます。

【出席者(敬称略)】九名

学部
九回 宮前喜久次
十二回 柳澤 一朗
十三回 清水 汎
十四回 杉浦吉治ご夫妻
大沢 周
渡邊慶孝
十八回 福田哲郎
飯塚 修
二五回 柳澤 一郎 記



会員の訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
元教員	龍 世祥	令 7 (2025). 7. 13	学部13回	五十里正二	令 6 (2024).12.28
高商18回	岩田 市三			脇田 達	令 7 (2025). 1. 16
学部 1 回	林 重彦	令 5 (2023).10.16		甲谷 晃	平31(2019)
学部 2 回	五十嵐久伸	令 6 (2024). 9. 7	学部16回	蜜澤 有二	令 7 (2025). 7. 13
	東 宗幸	令 7 (2025). 9. 10	学部17回	竹山 彰	令 6 (2024). 1. 9
学部 4 回	川元 武人	令 7 (2025). 4. 16		木方 俊弘	令 7 (2025).10. 4
	村田 稔	令 7 (2025). 5. 8	学部18回	成田 正一	令 7 (2025). 9. 21
学部 5 回	林 朝夫		学部20回	中村信一郎	令 7 (2025). 5. 30
学部 6 回	平井 岑生	令 7 (2025). 7. 19	学部21回	板谷 悦三	
	竹中 雅一	令 7 (2025). 8. 30		芝 教純	令 7 (2025). 5. 15
学部 7 回	深山 靖夫	令 6 (2024). 9. 3		永坂 國夫	令 7 (2025). 4. 7
	野口 修	令 3 (2021). 3. 7	学部24回	増岡 伸一	令 7 (2025). 4. 10
	長瀬 克之	令 7 (2025). 7. 12	学部26回	亀田 一郎	令 6 (2024). 8. 27
	窪田 純一	令 7 (2025). 9	短大 1 回	織田 一成	
学部 8 回	新保 外廣	令 5 (2023). 8. 25		奥井 昭夫	令 7 (2025). 2. 17
	中西 猛	令 7 (2025). 7. 24		舟崎 洋一	令 7 (2025). 8. 9
学部10回	栗嶋 毅	令 7 (2025). 2. 15	短大 3 回	大場 克晃	令 5 (2023). 2. 26
	北崎 弘也	令 7 (2025). 2		室河 清	令 7 (2025). 7. 29
学部11回	西田 辰朗	令 7 (2025). 6. 13	短大10回	白江 幸治	令 6 (2024).10. 2
	加藤 泰正	令 7 (2025). 5. 23	短大12回	小杉 林盛	令 6 (2024).11.12
	石出 宗秀	令 7 (2025).10. 5			

ご子息からのメールで石出君の訃報を知りました。九月二〇日の関東越嶺会総会に姿が見えなかったもので、事務局に聞いたところ体調不良で欠席とのことでした。心配していました。いずればと覚悟はしていたものの、あまりの早さにショックを受けました。それは三年程前に胃がん罹患しており、手術ではなく、緩和ケアを選択したと、彼から直接聞いていたからです。私もその頃、膀胱がんで全摘



後列の1番右が石出さんです。

塚 光雄

石出宗秀
(いしで・そうしゅう)君
を悼む

さて、彼との交友関係ですが学生時代、彼は柴田ゼミ、私は内田ゼミで全く接触はありませんでした。卒業後、彼は運輸省海運局、私は松坂屋上野店。畑違いの職場でした。彼と知り合ったのは、関東越嶺会の総会・新年会だったと記憶しています。その後、彼が店で買い物をしてくれたりするうちに何故か親しくなって行きました。タイトルの彼の名前にフリガナを付けましたが、店で背広を作ってくれたとき、上着に「M I S H I D E」とネーム入れしたところ「S H I D E」だと、「むねひで」「じゃなく」「そうしゅう」だと指摘され冷や汗をかいだことがあります。ところで、今でも鮮明に覚えているのは沖縄本土復帰に伴う沖縄本島及び諸島の港湾施設整備に係る国家プロジェクトを任された話を「規模も予算もデカいんだ」とやや興奮気味に語っていたことです。当時、我々は若干三〇歳ソコソコの頃で、びっくりしたも

手術を受け、お互い情報交換したものでした。

のでした。しかも「ワークライフバランス」もしっかり取っていたらしく、海釣りの楽しさを嬉しそうに語っていました。

私は役人の世界（彼は自分の職場をこう呼んでいた）については良くは知りませんが、彼の足跡を見ると着実に実績を積んでいたものと思います。

彼が運輸審議会を担当していたとき、「つくばエキスプレス（TX）」開業に関わり東京駅乗り入れができなかったことを今でも残念で仕方がないと語っていました。

また、尖閣諸島が国有化されるかなり前、海上保安庁時代の経験からか中国の脅威に警鐘を鳴らしていました。

一九九三（平成五）年七月彼が賞勲局長に就任したとき、大学同期で新橋の中華料理店でお祝いしたものです。彼は賞勲局の役割を熱く語っていたのを覚えています。綺羅星のごとく俊秀が集まっている中央官庁で賞勲局長、総理府次長に上り詰めるには相当の努力があっただろうが、一度たりとも苦労話を聞いたこと

はありませんでした。

本当に親しくなったのは彼が退官後でした。彼の人柄に触れておきます。兎に角、誠実・偉ぶらない。これは高位高官になっても、退官後も全く変わらない、本当に見事なものでした。また、彼の先見性・大局観にはいつも感心していました。

富山を愛し、富山大学経済

元関東越嶺会会長 石出宗秀さんを悼む

渡邊慶孝

私の前任の関東越嶺会会長の石出宗秀さん（二〇〇六～二〇〇九年在任）がご逝去されたとの知らせがあり、驚きました。多々ご指導いただいたことに深く感謝し、心よりご冥福をお祈り申しあげます。

石出さんは、海・山・平地ありの風光明媚な氷見市のご出身で、いつも、誰にも何事にも、真摯で熱意溢れる先輩でした。

学部を常に誇りに思い、自分の人生を生き切った彼との交遊を育んでくれた越嶺会の存在には大きく感謝しています。人生一〇〇年時代と言われている現在、心から語り合える友人を失った口惜しさ・寂しさに言葉ありません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

合掌

つか・みつお

（学部十一回）

当会の総会や役員会、各種行事のご挨拶は、参会者に静かに語りかける丁寧な口調で、当会の発展を願い、より盛況になるよう心遣いをされていました。

戦後の当会会長は、高商卒の七人の大先輩の後、木田川和夫会長（高商十四回）が一九七七年から一九九三年まで長くご尽力くださり、その後、経済学部卒の高堂清さん（一回）、折橋禮一さん（二回）、澤井政夫さん（五回）、安倍樹さん（七回）と引き継がれ、総会には百名前後が集い、盛り上がりしました。そして、学部卒五人目とし

て、石出さん（十四回）が推されて四年間、ご尽力されました。

石出さんはゴルフを好まれ、「バーディー会」の常連として会員の懇親交流を深められました。当会が加入しています東京富山県人会連合会の「懇親のつどい」にも、毎回出席されて県人関係者との交流にも努められました。

石出さんのゼミの後輩で、名古屋市在住の杉浦吉治さん（学部十四回 日本山岳写真協会会員、日本山岳会会員）が、上野の東京都美術館で開催されている同協会写真展で毎年、入選されていて、石出さんはゼミ生中心のお祝い会を毎年、企画、開催されました。そして、杉浦さんに当会の講演会講師として、お声かけもしていただきました。

最後に、石出さんが当会の設立八十周年記念誌（二〇一〇年）へ寄稿された言葉を紹介させていただきます。
「：青春時代を共に富山の学び舎で過ごしたという太い絆で結ばれた幅広い世代に亘る多くの会員が集う関東越嶺会

は、この人的交流のためには格好の組織であろう。(中略)特に若手世代にこの旨を強く訴え、今後の関東越嶺会への参加を大いに期待したい。」

関東越嶺会 元会長

わたなべ・よしたか
(学部十四回)

会員広場

能登被災地から反戦を訴える
作詞家・音楽プロデューサー
権谷達哉さん (学部四六回一
九九八年卒)



戦後八〇年にあたり能登在住の戦争体験者の話で構成されるラジオ番組「繋ぐ記憶」が公開収録の上、八月中旬から「FMかほく」をはじめ全国八局のコミュニティFMで放送され、読売、毎日、北國、西日本、沖縄タイムス、NHK等で報道された。
この番組(一時間)は権谷

さんの呼びかけで企画され、前半は戦争経験者七人のコメントを、後半では、空襲を経験した時国公政さんとの対談があった。

ナビゲーターの権谷さんは、英国音楽界との国際的連携をバックボーンに音楽を通じて、震災復興支援、地域振興、反戦平和を発信してきた。

十月からは、たんなん夢レディオ(福井)、エフエム萩(山口)で定時の音楽番組を持っている。以前からFMかほくで放送中の「能登・新時代の風」はエフエムつやま(岡山)、たんばコミュニティ(兵庫)にエリアを拡大して放送を継続している。

権谷さんが音楽活動を開始したのは三〇代半ばで、音楽SNS「ReverbNation」への参加がきっかけだった。ここで彼は、オーストラリアのBree-Anne Manley、ドイツのMarco Heilmann、アメリカのJimmy Dukelowらと出会った。

彼の活動にとって決定的な出会いとなったのが、イギリスの名プロデューサー スチ

ュアート・エップスである。レッド・ツェッペリンやエルトン・ジョンを手がけてきたこの伝説的人物との共作によって、[NO ONE] [THIS WORLD] [MOTHER] などの楽曲が生まれた。

いずれも、戦争の悲劇や命の尊さ、人間の孤独に対する眼差しを丁寧に言葉に落とし込んだ作品である。

とりわけ二〇二五年六月に発表された**終戦八〇年記念曲[I DREAM OF A WORLD]

* **は、ロシア・ウクライナ戦争を念頭に置きながら、「爆弾も恐怖も差別もない世界」を夢見る希望のメッセージソングとして注目を集めた。



近年では、AIとの共創にも取り組んでいる。AI生成技術を活用したコンピレーショナルバム『NOW APOL, OGY』では、AIがアレンジや構成を担いながら、権谷さんの詩が中心となって展開される音楽が生み出された。AIを「道具」ではなく「共作者」として受け入れることで、テクノロジーと人間の感情が交差する新たな音楽の形を提示している。

二〇二四年元旦には、能登半島地震に見舞われる。七尾市の自宅で震度六強の揺れを経験し、家屋の一部が損壊、断水が続く中、母親とともに二階での避難生活を選択した。彼はその後、震災支援活動に力を入れるようになる。三月には慰問コンサートを、五月には埼玉で復興チャリティイベントを企画・開催。

また、「能登・新時代の風」などの特別ラジオ番組をプロデュースし、全国のコミュニティFM局に配信するなど、音楽と放送の力を組み合わせた復興支援に奔走した。

現在は、仮設住宅に住みな

がら、地元のうたや地域振興のための楽曲も手がけている。例えば「古の眺め」「ボラ待ちやぐら」など、能登の自然や人々の生活をテーマにした作品群は、地域の学校やイベントでも使われ、音楽によるふるさと再生の一助となっている。

受贈図書御礼と紹介

増井秀次さん(学部二六回)から自著

『続 華麗なる明治七宝』

A4判一四四頁

二〇二五年五月三〇日

ブイツーソリューション発行

五、八〇〇円＋税



二〇二〇年九月発行の『華麗なる明治七宝』の続編。「第一章やっぱり明治七宝は素晴らしい」から第六章

「七宝の未来へ」まで、コラムを挿入しながらコレクションの説明や七宝作家を紹介し、増井さん自身の足跡も振り返っている。

石田五十六さん(学部一四回)から自著

『ダメンズの独り言』

百八話

変形判 一七六頁

二〇二五年七月二四日

Casa出版発行

一六五〇円(税込込み)



経済学部OB 82歳の円熟した会話と、18歳女性挿絵画家の自在発想の絵、まとめ上手の熟練編集者 三名の出会いが結ぶ「読ませたい本」庶民が庶民らしく生きるためのヒントの本。人間力あふれる感性の一書。

体育会 春の球技大会 (ビーチボール)を終えて

体育会では本年度二回の球技大会を予定している。五月二四日(土)に行われた春の大会では、とくに新学期を迎えてできた新しい仲間との親睦の場となるように企画し、昨春秋に実施して好評だったビーチボールに選定した。前回の応募チーム数は二〇チームだったので今回は三二チームを想定していたが、実際には一〇チームしか応募がなかった。それでも会場の第三体育館は大いに盛り上がり、



白熱した試合が繰り広げられた。決勝は「アウティン(裏)」と「のすらぶる」(どちらも親しい友人で組んだチーム)で強力なサーブやクイックプレーなどハイレベルなプレーが見られた。優勝は「アウティン(裏)」が勝ち取った。

この大会の課題として、情宣の遅れがあった。新学期的前からポスターやSNSの活用をして広く案内をすべきであった。他に、女子チームへのハンディ設定やチームと事務局との相互連絡方法など、細かい対応が必要となっている。いずれも事務局がまだまだ力不足であることを認めず、今後の事務局体制の在り方を考えなくてはならない。

今回も富山県ビーチボール協会や朝日町の協力があって大会はスムーズに進行できた。感謝するとともに、今後も協力をお願いしたいと思っている。

今年二回目の競技大会は、ボーリング大会を11月22日(土)に千歳町のゴールデンボウルで実施した。次号で報告します。



富山大学基金だより

第26号
2025.11.1発行

●学部1年次対象 短期海外英語研修 研修体験記 [令和7年2月・3月に、2週間から4週間の短期海外派遣]

所 属：人文学部 人文学科 2年
名 前：川田 真央
留学先：ニュージーランド
留学先機関名：オークランド大学



この度は、富山大学基金の短期海外派遣プログラム支援事業に参加させていただき、ありがとうございました。私はオークランド大学内にあるELAという語学学校で約5週間英語の授業を受けました。授業ではグループワークやディスカッションの機会が多く、クラスメイトと積極的に交流しながら、楽しんで英語を学ぶことができました。

ニュージーランドでの生活で特に印象に残ったのは、現地の人々の親切さと礼儀正しさです。例えば、バスを降りる際には乗客全員が運転手に“Thank you!”と声をかけており、その光景に心が温くなりました。

今回の研修を通じて多様な価値観に触れることができ、自分の視野を大きく広げることができました。この貴重な経験を活かし、今後も積極的に英語学習に取り組んでいきたいと思います。



所 属：理学部 理学科 2学年
名 前：清水 里桜
留学先：国名 台湾 留学先機関名：海南大学



この度は短期海外語学研修参加に関してご支援していただきありがとうございます。約2週間の研修では、英語で英語の文法を学ぶ授業や調理実習の授業、CAに関する授業など、普段とは異なるジャンルの授業を多く体験できました。みんなで夜市や大学の食堂に行ったり、観光に行ったりと授業外の活動も楽しむことができました。

今回の海外研修は、自身の英語学習のモチベーションを高めたり異文化理解を深めたりする点で非常に有意義なものであったと感じております。海外の人や文化との出会いを今後さらに積極的に行っていきたいと強く思います。



所 属：経済学部 経済経営学科 2学年
名 前：西田 有希
留学先：マレーシア 留学先機関名：トゥンクアブドゥルラーマン大学

この度は昨年度の学部1年次対象短期海外英語研修に際し、富山大学基金からのご支援ありがとうございました。私は海外に行ったことがなく、大学生のうちに経験したいと考えていたのですが、丁度この基金・短期研修のことを知り、ぜひ活用させて頂きたいと思い研修に参加しました。

マレーシアはマレーや中国、インドなどの文化が混ざる多民族国家で、公用語もマレー語なので研修前は過ごすのが大変なのだろうと考えて身構えていました。しかし、いざ過ごし始めると、英語が話せる人も多く、むしろ多民族国家だからこそいような料理や文化を体験できました。

この研修で1番心に残ったのは、行かなきゃ良い面も悪い面もわからなかったということです。ネットだけでは絶対知り得ない貴重な経験を学生のうちにできたことはとても有り難く思います。この経験を糧に、これから語学学習や留学、他国の人々とのコミュニケーションに積極的に挑戦していきます。

写真1：マレーシアで有名なお菓子「オンデオンデ」



写真2：ターンテーブルでの会食、どれも非常に美味しかったです

●富山大学基金事業 学生海外留学支援事業 留学体験記

所 属：人文学部 人文学科 3 学年

名 前：小屋敷 幸花

留学先：大韓民国 留学先機関名：慶北大学

期 間：令和7年3月～6月



この度、富山大学基金事業における学生海外留学支援事業の奨学生として多大なるご支援を頂き、誠にありがとうございました。私は、3学年の前学期に韓国の大邱に所在する協定校である慶北大学に留学してきました。現地の学生に混じって講義を受け、マイクを回して議論にも参加し、班員の学生と共に資料を集めて発表をしたことは、活動的で能動的な韓国の教育制度について身をもって知る良い経験となりました。特に、文学作品を通して韓国の現代社会に潜む現実について考える授業は、自国をも省みる貴重な機会となりました。

他にも、日韓交流のサークル活動に参加したり、現地の学生が日本語の会話練習をする活動の手伝いをしたりすることで、互いの文化や考えを直接共有して、国籍を超えた新たな視点で両国に対する理解を深め合うことができました。

留学に行き得たものを意義のあるものとするために、これからも考えることを怠らず、学業に励んでいきます。



●国立大学法人富山大学統合20周年記念式典、記念シンポジウムを举行

令和7年10月1日、富山大学黒田講堂にて、統合20周年記念式典及び記念シンポジウムが開催され、関係機関、卒業生、在学生、教職員約300名が本学20周年の節目を祝いました。

記念式典では、齋藤滋学長が挨拶し、地域と世界に開かれた大学としてさらなる発展を目指す決意があり、記念シンポジウムのパネルディスカッションPart1では「富山大学の今」をテーマに、本学の統合から現在までの取組及び未来への展望について意見交換が行われ、パネルディスカッションPart2では本学卒業生4名と、現役学生を加えた5名が登壇し、「富山大学のNEXT20年に向けて」をテーマに、富山大学での経験と今後さらに魅力ある大学となるための提言を自由な発想で語り合いました。

統合20周年記念事業に、多くの企業・個人の方々からの寄附がありました。皆様からの寄附を有効に利用させていただき、更なる地域と世界に開かれた大学を目指してまいります。今後とも、富山大学へのご支援をお願い申し上げます。



●寄附者様ご芳名一覧 (令和7年4月～令和7年9月)

寄附者のご芳名は五福キャンパス事務局棟玄関フロア及び富山大学基金ウェブサイトでもご紹介しております。

【個人】(50音順にて記載)

會澤 宣一 井ノ口 馨 片岡 弘 鞍岡 利昭 栗原 宏樹 酒井 秀紀 坂本 晶奈 XIE BINGXIN 須藤 正幸 竹越 栄俊 竹村 樹里
遠山 和大 永尾 恵司朗 中田 由紀子 濱中 新矢 藤井 ヒメ子 藤井 康雄 藤本 孝子 前田 等 森本 直幸 吉田 勝一 和田 直也
(ほか公表辞退 25名)

【企業・法人等】

井上商事株式会社 株式会社今井機業場 射水建設興業株式会社 大高建設株式会社 大谷製鉄株式会社 株式会社オカザキ工業
株式会社KEC 株式会社小松電業所 株式会社三共空調サービス 株式会社シンソーワ 大平洋製鋼株式会社 田中精密工業株式会社
中越合金鋳造株式会社 株式会社月星製作所 富山スガキ株式会社 株式会社富山第一銀行 富山大学生協同組合
株式会社なかに印刷 日本海計測特機株式会社 株式会社HARITA 北陸総合警備保障株式会社 北陸電力株式会社
松本建設株式会社 株式会社ヤマシタ ヤヨイ化学工業株式会社 一般財団法人 立仁会
(ほか公表辞退 4社)

●富山大学基金の寄附受入状況

受入期間：令和7年4月～令和7年9月末

寄附の種類	寄附件数	寄附金
富山大学基金(一般)	61件	14,625,750円
うちリサイクル募金	5件	26,668円
修学支援基金	13件	312,000円
研究等支援基金	14件	665,000円
合 計	88件	15,629,418円

●富山大学、メルマガはじめました！



毎月、富山大学の
最新情報をお届けします。

お問い合わせ先：富山大学総務部総務課広報・基金室(基金担当)
〒930-8555 富山市五福3190 Tel. 076-445-6178 Fax. 076-445-6063
E-mail: kikin@adm.u-toyama.ac.jp URL: https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp



住所変更通知欄（越嶺会事務局 FAX:076-445-6419）

住所や姓名等に変更があった際はFAX等でお知らせ下さい。

お名前 _____

新住所 _____

（差し支えなければメールアドレス _____）

新電話 _____

新勤務先 _____

— 通信欄 —